

「沈みかけた時に」(要旨)

聖書箇所：マタイの福音書14章22~33節

【1】 群衆が求めた王

五つのパンと二匹の魚で五千人の空腹を満たされた主イエス。「それからすぐに」(マタイ 14:22)イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、群衆を解散させました。一体何が起こったのでしょうか。五千人の給食の後、群衆のイエスに対する態度が変わりました。群衆はイエスを自分たちの王にしようと、イエスのご意思とは関係なくむりやり連れて行こうとしたのです(ヨハネ6:15)。かつて自分たちの先祖をエジプトの圧政から救い出したモーセのように、イエスがローマの支配から解放してくれるメシアであると熱狂したのでしょうか(参照申命記 18:15,ヨハネ6:14)。

▷イエスは救いを求める群衆に「深いあわれみ」を示されました。一方で、群衆のご自分に対する熱狂には応じませんでした。

【2】 イエスは湖の上に歩いて

舟に乗り込んだ弟子たちは向こう岸を目指しました。ところが向かい風に悩まされ、夜明け近くになっても目的地に着くことができませんでした。疲労がピークに達していたその時、弟子たちの目に暗がりの湖面を歩く人影が飛び込んできたのです。彼らは恐れ「あれは幽霊だ!」と叫びました。誰一人、人が湖の上を歩いてくるなどと想定していませんでした。イエスは取り乱した弟子たちに「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない」(マタイ 14:27)とご自分が何者であるかを明らかにされました。

弟子の中には、ガリラヤ湖で漁師をしていた者もいました。彼らが目的地に到着できなかったのは、舟の操縦技術や経験不足が原因ではありません。人にはどうすることもできない向かい風によって、進めなかったのです。

▷強風を前に成す術のない弟子たちのところにイエスは近づき、向かうべき道を開いてくださいました。

【3】 沈みかけた時に

ペテロは目の前にいるお方がイエスだと知り、衝動的に「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」(マタイ 14:28)と願いました。イエスも「来なさい」と応じました。彼はイエスのことば通り、一步一步、水の上を歩いてイエスの方に向かいました。ところが「強風を見て怖くなり、沈みかけた」(マタイ 14:30)のでした。突然風が吹いたからではありません。途中で強風を見て怖くなったのです(マタイ 14:32)。ペテロは「主よ、助けてください!」とイエスに叫びました。イエスはペテロをつかみ、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」(マタイ 14:31)と声をかけ、そして引き上げてくださいました。マタイの福音書に「信仰の薄い者」ということばがたびたび登場します(参照マタイ6:30, 8:26, 16:8)。そのどれもイエスを信じながらも疑う弟子に向けたことばです。

「疑う」は、字義的には「二つに分けられている」を意味します。この時ペテロの中には、「イエスの『来なさい』ということば通りに湖を渡れる」と「強風を見て、沈んでしまう」という二つの考えが同居していました。両方の思いを天秤にかけて進んだ結果、強い風を見て、沈みかけたのでした。

この出来事はペテロそして弟子たちにイエスが何者であるかを明らかにする機会となりました(マタイ 16:16)。この時弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」(マタイ 14:33)とイエスを礼拝したのでした(参照マタイ 28:9)。

▷イエスは民衆が期待する「自分たちの王」ではありませんでした。人は逆巻く波、風を治める「神の子」を認める時、そのお方に礼拝をささげる者となります。

